

牧宮口・宮澤仁治家文書目録解題

牧区棚田在住の羽深ミイ氏から寄贈された、2,100 点余り（同内容の資料をまとめたため目録点数としては 324 点）の文書群である。羽深氏の実家である旧東頸城郡牧村大字宮口の宮澤家に伝えられた。明治末から大正、昭和初期にかけての文書が多く、私信や受取証・勘定書などの私的な文書が多数を占めている。

『牧村史』（平成 10 年 3 月 30 日発行 牧村史編さん委員会編）編さん時に、このうちの 60 点ほどの文書は、目録〔資料番号 1487-256-1〕が作成され、封筒詰めして牧村史専用の段ボール箱で保管されていた。それ以外の文書は、未整理の状態で、牧村史専用の段ボール箱にそのまま入れ替えられたと考えられる。

文書を伝えた宮澤家は、近世には組頭・百姓代などの村役人を務め、幕末から明治初期には庄屋を、その後は地租改正用掛の任にあたった。また、大正末から昭和初期にかけては、貞治氏が牧村長の職に就いていたが、村政にかかわる文書はこの時期のものが集中して残っている。

近世文書には、宮口村〔資料番号 1487-6-1〕と近隣の山口村〔資料番号 1487-1-1〕、田嶋村〔資料番号 1487-2-1〕、富田村〔資料番号 1487-4-1、1487-5-1〕、の 5 冊の天和検地帳が含まれている。また、明治 3 年(1870)の「土地産物書上帳」〔資料番号 1487-24-1〕は、宮口村庄屋・与頭・百姓代が新政府の川浦役所へ提出した文書の控で、米・稗・粟・麦・蕎麦など、雑穀類の収穫量がわかる資料である。

宮澤家は明治以降に運送業や酒造業にも携わり、運送業に関しては明治 14 年(1881)の「駄賃差引帳」〔資料番号 1487-146-1〕など駄賃帳 4 冊から、信州へ荷駄を運搬していたことがわかる。また、運送業との関係は明確ではないが、明治末には旅客・荷物を運搬する「宮澤自動車」を起こし、昭和 11 年(1936)には「宮口線自動車株式会社」を設立して乗合自動車運行を開始した。こうした自動車関連の機材や備品などのパンフレットや広告類、案内葉書が多数残されている。

酒造に関しては、大正 2 年(1913)に「宮口酒造株式会社」を設立した記録があるが、資料が少ないため詳細は不明である。

このほかに特徴的な資料として四ヶ村用水にかかわる資料と明治初期の地籍図が挙げられる。宮澤貞治氏は、牧村長職にあった時期に四ヶ村堰用水の「堰所管理人」「堰所看督」の職を兼ねていたことから、用水普請や諸入用費の割賦など約 50 点の四ヶ村用水に関わる資料が含まれる〔資料番号 1487-41-1～1487-83-1〕。

地籍図〔資料番号 1487-257-1〕は、平成 21 年 6 月、当時の所蔵者により修復がおこなわれたもので、糊がはがれバラバラになっていたものを裏打ちし貼り合わせて、一枚に仕立て直された。仕立ては専門の表具師が行い、専用の杉箱も製作して保管していた。明治初期における宮口村の田地の概況が見やすくまとめられている。

宮口村に関連して、元新潟県立文書館長の本井晴信氏から寄贈された宮口村文書〔資料群番号 1464〕がある。これは、庄屋を務めた家に伝来したものと推定され、宮澤家文書と相互に補完させながら研究を進めることが可能である。